

反戦・平和
人権 環境
脱 原 発の
火を消すな！



PEACE石川 NO50 2015. 8. 12
発行 石川県平和運動センター
金沢市西念3-3-5 Te1076-233-2170

アベ政権は
アブない

人質の命と「国益」を交換
ISに人質を取られてい
るにもかかわらず、「ISと
戦う国に2億ドル＝20億
円の援助」を約束した安倍首
相に、「命と暮らし」を任せ
ることはできません。
年間20ミリシーベルト超
の地域に「帰還を呼びかけ
る」安倍首相に「安心、安
全」を任せることはできま
せん。
核ミサイルの危険性は語
っても「放射能」「原発」の
危険性は語らない安倍首相
に私たちの暮らしは任せる
ことができません。

無責任！川内原発の再稼働
ある新聞にも書いてあり
ましたが、「誰も安全と言わ
ず、責任を負える人もなく、
原因も未解明のまま、そして
なにより3.11の災禍がいま
だ続くこの国で、原発再稼働
とは！」企業と電力にのみ
向き合う安倍政権に怒りの
渦がまいていく。

この怒りを、「もはや安倍
政権は、労働者・市民にとつ
て不要です」の声に転化しよ
うではありませんか。「打倒
安倍」で手をつなぎ、退陣を
迫ろうではありませんか。
この「うねり」を確かな物
にして前進しましょう。
未来のために。

「戦争法反対！憲法改悪阻止！」の闘いを労組、職場、地域で 創ったぞ！

この結集力を8.30集会（犀川河川敷）へ、国会10万人全国100万人集会へ！

参院山場で「戦争法を廃案に追い込み！ 国民を戦争に動員する安倍内閣を打倒しよう！」

学習塾の先生が子どもたち
に安保法制の問題点を説明



戦争法反対署名を書く市民



政党による「戦争法反対」街宣



安保法を問うシール投票結果

賛成	わからない	反対
7/6 ~ 7/26 87人 (3.1%)	7/6 ~ 7/26 273人 (9.9%)	7/6 ~ 7/26 2410人 (87.0%)

「ピーステント（座り込み）」ポスター（7/6～7/26）



7.16衆院強行採決糾弾！
500名が結集



晴れた日も雨の日も。





6.23 反戦平和を考える集会



6.22 「非核平和行進」 金沢



6.10 「戦争法反対！憲法改悪阻止！」集会 ナショナルセンターの枠を

越えた労組・市民の結集



6.24 八団体共同記者会見

5月3日以降 主な闘い
延べ3800名が参加

- 5.3「憲法施行68周年」集会（前段に“制服向上委員会”コンサートを開催、一緒にデモ行進する）金沢平和Cほか300名
- 6.10「戦争立法反対！憲法改悪反対！」集会（労組を中心に市民やナショナルセンターの枠を越えて呼びかける）集会実行委 1100名
- 6.115「非核・平和」行進 県内6会場 各地区平和センター・原水禁石川 輪島市、志賀町、金沢市、白山市、小松市ほか 550名
- 6.14516 辺野古派遣5名
- 6.23 青年女性集会 100名
- 7.6526「戦争法を許さないピーステント 座り込み」八団体 1300名（7.16抗議集会500名含む）
- 7.20 九条の会 小松 200名、
- 7.23 九条の会 七尾 100名

8.30集会に参加しよう

日時：8月30日（日）11時～12時30分

場所：桜橋下流右岸（犀星碑まえ）デモ：片町～香林坊～武蔵が辻

安倍政治を許さず！戦争法を廃案に！

“仮想敵国”名指し、安倍政権が煽る「中国脅威論」の詭弁



4月23日刊ゲンダイ

もはや「軍事衝突」の危機を

をめぐり、国民の理解を得るしかない――。そんな安倍政権の恐ろしい「本性」が表れた。7月28日から始まった安保法案の参院特別委。驚いたのは、与党議員とのやりとりで、安倍首相や中谷防衛相が「中国」を名指しし、“仮想敵国”扱いの答弁を繰り返していたことだ。

「中国は防衛識別圏を設定し、領空のようにしている」「南沙諸島埋め立ては軍事基地」要するに安倍政権は「安保法案は中国に対抗するため」と言いたかったらしい。だが、安倍首相は20日に生出演したフジテレビの番組で、「目の前の脅威は、ズバリ中国ですか」と問われ、「私は特定の国だと申し上げるつもりはありません」とトボケていた。それが参院特別委では一転して中国批判だ。一体なぜなのか。

「『安保法案はなぜ必要なのか』という疑問に対し、安倍政権はこれまで『安全保障環境の変化』とお茶を濁してきたが、いよいよ国民をごまかし切れなくなった。『中国』という具体名を挙げないとダメだと判断したのでしよう。22日に突然、外務省が中国の東シナ海のガス田開発の写真を発表したのも、その伏線だと思えます」（与党関係者）

違憲立法の「安保法案」をゴリ押しするために「中国脅威論」をめぐり、世論を誘導しようなんて、つくづく姑息

だ。ヒトラーの参謀、ヘルマン・ゲーリングは「戦争を望まない国民を政治指導者が望むようにするのは簡単。国民に我々は攻撃されかかっている」とあり、平和主義者に対して愛国心が欠けていると非難すればいい」と言っていたが、今の安倍政権そのものだ。

Ⅱ新聞見出しⅡ 安保法案を「かみ砕いて説明したか」

（社会新報より）

7月16日、自・公による衆議院本会議「強行採決」を、日本の代表的な新聞はどのように伝えたか。

■「安保論戦、参院へ11法案衆院通過」（朝日）。■「安保法案衆院通過、与党、9月成立へ強行」（毎日）。■「集団的自衛権容認、戦後の政策転換」（読売）。■「安保政策新たな一歩、関連法案衆院通過、今国会成立へ」（産経）と。

これらに対し米紙ニューヨークタイムズは、

■「日本下院（衆院）、軍備拡張に道、軍隊に従来よりフリーハンドを与える安倍のパッケージ、抗議行動にもかかわらず通過」「より自由な軍隊にお墨付き」。ウォールストリートジャーナルは、

■「安倍、強硬な軍事法案を後押し」と。

どちらが「かみ砕いて説明」していると思われるのか？

日本の新聞の多くは、「衆院通過」はおきまりの「通過儀礼」にすぎない、と思えるような見出しに「墮して」しまっている。

これは、ニューヨークタイムズが、日本のジャーナリズムで政権批判をしているのは「週間金曜日」「日刊ゲンダイ」「週刊現代」しかないという主張と重なる。この指摘に「そのとおり」と思うのは編集子だけだろうか。

△当面の日程△

最新は主催者にお聞き下さい。

◆8月30日（日）「安倍政治を許さず、戦争法を廃案に！」大集会・デモ（13:00～18:00）犀川河川敷（桜橋下流右岸）戦争法反対 憲法改悪阻止を呼びかける八団体

◆8/245/20 街頭宣伝（9/145/18は除く）JR金沢駅東口、エムザ前、アトリオ前、兼六園下 呼びかける八団体

◆9/145/18 参議院山場「戦争法を許さない！ピーステント 座り込み」（四高記念公園時計台前）

◆9月4日（金）「広場使用不許可違憲！」訴訟 第7回口頭弁論 金沢地裁202号法廷

◆9月6日（日）13:00「高浜・川内・伊方原発の再稼働を許さない！全国集会 京都梅小路公園

◆9月29日13:00 拡大運営委員会15:00第16回定期総会 地場産本館第4研修室 県平和センター

◇複眼 トンボの眼◇

□自衛の権利は国連憲章で認められている。だから日本にもあるのは自明の理と安倍首相。しかしこれは、憲法をどう読んでも「自衛権」すら否定しているので国連憲章に頼った詭弁。戦争は自衛の名によって始まる。日中戦争、太平洋戦争、ベトナム、イラク、アフガン、ウクライナ。

□戦力を強化し抑止力を高めることが「国民の生命と暮らしを守り戦争を阻止できる」と安倍首相。□しかし、世界一強力な武力と課報力を持つアメリカは、なぜ9.11を防げなかったのでしょうか。武力で平和は守れない。

編集後記

「私が責任者」とは安倍首相のことば。これは責任をとるという意味ではなく「最高権力者」という意味らしい。

憲法も「解釈」変えし国会議員の質問にも「答えない」首相。しかも、国民に責任を持つはずの内閣の閣議に先立ち、NSC（国家安全保障会議4大臣会合）で一切を決めてしまつらしい。軍国主義者としての面目躍如か。

戦争法を廃案にし、安倍内閣をはやく退陣に追い込まなければ私たちの未来はない。 NT

PEACEネット会員募集中
年会費3000円
反戦平和、脱原発、人権擁護